

介護福祉学科  
1年

授 業 科 目	人 間 の 尊 厳 と 自 立			担 当 者	藤 原 久 礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。

#### 到達目標

- ・①人間の尊厳と自立、②介護における尊厳の保持・自立支援を理解できる。また、社会福祉分野固有の人間の捉え方や支援の考え方を理解することができる。さらに、介護福祉士として利用者支援を行う際の基盤となる社会福祉概念を理解し、今後の介護福祉支援に活かすことができる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. オリエンテーション
2. 人間の尊厳の保持への支援（概要）
3. 生命の尊厳、神聖性（SOL）
4. 人間の尊厳
5. 倫理原則と徳の倫理
6. 基本的人権と人権の尊重
7. 人間の尊厳と「自律」・「自立」
8. 生活の質（QOL）
9. パーソンセンタードケア
10. 人間の変化の可能性の尊重
11. エンパワメントとストレングス
12. ソーシャル・インクルージョン
13. 権利擁護・アドボカシー
14. 国際生活機能分類（ICF）、自立支援に向けて
15. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・自分の暮らしと、人権のかかわりや生活の質について考える。
- ・当たり前な生活とは何かについて、自分の生活の中で意識し考える。
- ・生命の尊厳、人間の尊厳、人間の成長・発達について意識をしながら日々の人間関係を築いていくよう努力をする。

#### 評価の方法・基準

- ・授業への参加態度(10%)、レポート等提出物(20%)、試験(70%)などによる総合評価

#### 教科書

- ・授業で適宜プリントを配布する

#### 備考

福祉現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、福祉の人の見方から人間の理解を解説する。

授 業 科 目	人間関係とコミュニケーション			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養う。また、利用者の生活理解に必要なマッピング技法の能力を養う。

#### 到達目標

- ・ 対人援助における人間関係の形成ができる。
- ・ 相談支援におけるコミュニケーションの基礎を理解し、対人援助場面で活用できる。
- ・ マッピング技法の知識と技術を習得し活用できる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 対人援助とコミュニケーション
2. コミュニケーションモデル
3. コミュニケーションの基本 ①
4.                 "                                 ②
5. 相談援助の7原則 ①
6.                 "                                 ②
7. 援助的態度とコミュニケーション ①
8.                 "                                 ②
9. 対人援助のコミュニケーション・テクニック ①
10.                "                                ②
11. マッピング技法（ジェノグラム） ①
- 12.
13. 介護実践におけるチームマネジメント ①
14.                "                                ②
15. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・ 自分の対人関係におけるコミュニケーションの特徴を理解する。
- ・ 授業で学んだコミュニケーションの技法を日々の生活の中で、意識をしながら活用する。
- ・ 介護実践におけるチームマネジメントの意義とケアを展開するためのチームマネジメントを理解する

#### 評価の方法・基準

- ・ 授業への参加態度(10%)、レポートなどの提出物(20%)、試験(70%)による総合評価

#### 教科書

- ・ 授業で適宜プリントを配布する

#### 備考

福祉現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、相談援助の視点から対人支援の理解を解説する。



授 業 科 目	介護の基本Ⅰ			担 当 者	吉岡 俊昭		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	6 0

#### 授業の目的・内容

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続を支援するためのしくみを理解する。その人らしい生活を支援する専門職として、介護を必要とする人の生活を理解し、求められる倫理観や姿勢を養う。

#### 到達目標

- ・生活を支援する意味が理解できる。
- ・介護を必要とする人の理解ができる。
- ・地域連携の必要性について理解できる
- ・介護福祉士を支える団体について理解できる
- ・日本介護福祉士会の倫理綱領が理解できる

#### 授業計画

##### 【前期】

1. オリエンテーション
2. 私たちの生活の理解「生活とは何か」
3. 自分自身の生活の分析
4. 高齢者の暮らしの理解
5. 介護福祉を必要とする高齢者の暮らし
6. 介護福祉を必要とする障害者の暮らし
7. 「自分らしさ」と「その人らしさ」
8. 「その人らしさ」の介護福祉における活用
9. 「生活ニーズ」の理解
10. 生活のしづらさについて考える
11. 生活のしづらさに対する支援
12. 地域連携の意義と目的
13. 地域連携にかかわる機関の理解
14. 利用者を取り巻く地域連携の実際
15. 中間まとめ

##### 【後期】

16. 前期の振り返り
17. 介護福祉士の倫理
18. 介護実践における倫理
19. 倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応
20. 介護福祉士を支える団体①
21. 介護福祉士を支える団体②
22. 日本介護福祉士会倫理綱領
23. 利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践①
24. 利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践②
25. 介護倫理と虐待
26. 虐待につながる不適切なケア
27. アンガーマネジメント①
28. アンガーマネジメント②
29. 介護福祉士になる自分に足りないものの理解
30. 全体のまとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・教員が授業後に次回の授業説明を行い、その部分の教科書を読むなど授業の準備を行う。また、教員から出された課題を次の授業までに行っておく。

#### 評価の方法・基準

- ・筆記試験(70%)、レポート(15%)、授業への意欲的な参加(15%)で評価を行う。

#### 教科書

- ・『介護の基本Ⅰ』（中央法規出版）『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版）

#### 備考

介護施設で介護職・生活相談員に従事した経験を持つ教員が、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続を支援するためのしくみについて解説する。

授 業 科 目	生活支援技術 I			担 当 者	豊田 美絵		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、住まいの多様性を理解し居住環境の整備の必要性を考える。また介護ロボット等の目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。

#### 到達目標

- ・居住環境の整備の必要性を理解できる。
- ・対象者の状態にあわせた福祉用具の選択・活用が理解できる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 生活支援の基本的な考え方
2. 生活支援における介護過程の必要性
3. 生活支援と多職種連携
4. ICFの視点と生活支援
5. 住まいの役割と機能
6. 加齢と生活空間
7. 快適な室内環境
8. 安全に暮らすための生活環境
9. 高齢者・障害者の住まい
10. 生活支援における福祉用具の重要性
11. 福祉用具の種類
12. 福祉用具の実際とリスクマネジメント
13. 適切な福祉用具を選ぶための視点
14. 介護ロボットの開発・活用にみるこれからの福祉用具の可能性
15. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・授業終了時、プリントや資料（授業で使用したもの）をきちんとファイリングし復習する。

#### 評価の方法・基準

- ・授業態度(10%)、出席(10%)、課題提出物(20%)、試験結果(60%)で判断する。

#### 教科書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術 I』（中央法規出版）

#### 備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、介護施設の環境や介護を必要とする人の住環境、また福祉用具の活用について解説する。



授 業 科 目	介護過程 I			担 当 者	豊田 美絵		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	6 0

#### 授業の目的・内容

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程の仕組みや目的を理解し、基本的な展開方法を習得する。

尊厳の保持や自立支援の視点から個別のニーズに対応できる展開の方法を理解し、実践的な展開を行なうための基礎知識を身につける。

#### 到達目標

- ・介護過程の意義と目的が理解できる。
- ・基本的な展開方法を理解できる。
- ・個々の利用者を知り、根拠に基づいた生活課題を導き出すことができる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 暮らしを考える
2. 生活支援とは
3. ケアプランと介護計画
4. ICFの考え方
5. 介護過程の全体像
6. 介護過程の意義と目的
7. 介護過程の展開
8. アセスメントとは
9. アセスメントの方法
10. 情報収集の方法と留意点
11. 情報の分析について
12. 情報の分析の実際について
13. 情報の分析の実際を検討する
14. 課題の明確化
15. まとめ

##### 【後期】

16. アセスメントについて（前期の復習）
17. 事例に基づくアセスメントの実際
18. 事例に基づく情報収集と分析
19. 事例に基づく情報分析の検討
20. カンファレンスの実際
21. カンファレンスからの検討
22. 介護計画の立案
23. 介護計画における目標とは
24. 具体的な支援内容と支援方法について
25. 実施について
26. 実施における留意点と記録について
27. 評価について
28. 評価における留意点と修正や記録について
29. 再アセスメントと介護計画
30. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

#### 評価の方法・基準

- ・筆記試験（60%）、出席・授業態度・演習課題の提出状況・グループでの取り組み評価（40%）

#### 教科書

- ・『介護過程』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配付する

#### 備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、介護過程の仕組み目的等、基本的な展開方法を解説する。

授 業 科 目	介護過程Ⅱ－①			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開するうえで、最も重要となる情報収集が適切に行える能力を養う。

#### 到達目標

- ・利用者の生活状況を把握する視点を持つことができる。
- ・把握した情報を適切に言語化できる。

#### 授業計画

##### 【後期】

1. オリエンテーション
2. 介護過程の意義、目的
3. 情報収集の目的、アセスメントの実際
4. 情報収集の方法
5. 利用者の「している活動」「本人の思い」
6. 情報収集の実際 事例（身体機能、コミュニケーション）
7.            "            （一日の過ごし方、生活歴、人間関係）
8.            "            （起居・移動動作）
9.            "            （排せ）
10.           "           （清潔・整容）
11.           "           （医療面について）
12.           "           （フェイスシートの記入）
13. 情報収集の実際 まとめ
14. 介護実習Ⅱ－①に向けて「アセスメント」の実際 ①
15.            "           ②

#### 事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

#### 評価の方法・基準

- ・提出物（90%）、授業態度（10%）

#### 教科書

- ・『介護過程』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配付する

#### 備考

介護施設で介護職・介護支援専門員に従事した経験を持つ教員が、情報収集の方法について解説する。

授 業 科 目	介護総合演習 I			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

介護実習とは何かを理解し、介護実習 I に必要な知識や技術を確認する。

#### 到達目標

- ・介護実習 I に必要な知識や技術を身に付けることができる。
- ・介護実習を始めるための諸手続きが行える。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 介護実習の意義と目的
2. 高齢者の暮らしを考える
3. 実習 I のねらいと実習モデル
4. 実習 I で想定される実習先 ①特別養護老人ホーム ②介護老人保健施設
5.                   "                   ③通所介護 ④その他の実習先
6. 実習を始めるまでの手続き①
7.                   "                   ②
8.                   "                   ③
9. 生活支援技術を軸にした介護実習 「実習日誌」 ①
10.                  "                   ②
11.                  "                   ③
12.                  "                   ④
13. 実習前指導、実習前の諸注意、書類の確認
14. 実習後指導
15. 実習報告会

#### 事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

#### 評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

#### 教科書

- ・『介護総合演習・実習』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配付する

#### 備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ職員が、実習 I に必要な知識や技術を解説する。



授 業 科 目	障 害 の 理 解 I			担 当 者	金 光 久 美		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を理解し、本人や家族も含めた介護上の留意点について学習する。また、介護現場で重要となる自立に向けた生活支援ができるよう、生活に視点を置いた基本的な支援方法について学ぶ。

#### 到達目標

- ・ 障害の原因や代表的な障害の病態について説明できる。
- ・ 障害がもたらす日常生活への影響について説明できる。
- ・ 障害がもたらす心理面への影響について説明できる。
- ・ 自立に向けた支援方法について説明できる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 視覚障害のある人の医学的・心理的・生活の理解と介護上の留意点
2. 聴覚・言語障害、重複障害 //
3. 運動機能障害 //
4. 知的障害、発達障害 //
5. 精神障害 //
6. 高次脳機能障害 //
7. 重症心身障害 //
8. 心臓機能障害 //
9. 腎機能障害 //
10. 呼吸機能障害 //
11. 膀胱・直腸機能障害 //
12. 免疫機能障害 //
13. 肝臓機能障害 //
14. 難病 //
15. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・ 授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。

#### 評価の方法・基準

- ・ 学期末テスト(80%)、レポート(20%)

#### 教科書

- ・ 『障害の理解』（中央法規出版）

#### 備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、障害に関する医学的知識、心理的・生活の理解、介護上の留意点について解説する。

授 業 科 目	障 害 の 理 解 Ⅱ			担 当 者	金 光 久 美		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

障害の概念、障害者福祉の基本理念を学び、障害のある人がどのような介護技術が必要としているのかを学ぶ。また、家族支援のあり方や多職種との連携・協働について学習する。

#### 到達目標

- ・障害者の法的定義について説明できる。
- ・障害のある人に対する介護の基本的視点について説明できる。（自己決定、エンパワメント、権利擁護）
- ・障害のある人の社会資源の活用方法について説明できる。
- ・家族支援のあり方について説明できる。
- ・介護福祉士以外の保健医療福祉職種との連携について説明できる。

#### 授業計画

##### 【後期】

1. 障害のある人の暮らし 成年後見制度
2. わが国における障害者の法的定義
3. リハビリテーションの意味と理念、目的
4. 障害のある人の自己決定
5. エンパワメント
6. 権利擁護
7. 社会資源の利用と開発①
8.         "                         ②
9. 福祉機器
10. 居宅支援と自立
11. 家族支援の視点
12. 家族の状態の把握と介護負担の軽減
13. 多職種との連携
14. 地域におけるサポート体制
15. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。
- ・授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

#### 評価の方法・基準

- ・学期末テスト(80%)、レポート(20%)

#### 教科書

- ・『障害の理解』（中央法規出版）

#### 備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、障害の概念、障害者福祉の基本理念、家族への支援のあり方について解説する。

授 業 科 目	こころとからだのしくみI			担 当 者	金光 久美		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

介護福祉士が支援していくうえで必要な利用者理解のための基本として、人のこころとからだのしくみについて学習する。

人の心理的側面のみならず、「死」についての考察を深め、死と直面する相手と向き合えるようになることを目指す。

#### 到達目標

- ・脳のつくりと働きについて説明できる。
- ・こころと脳のつながりについて説明できる。
- ・高齢者の睡眠障害の特徴、支援方法について説明できる。
- ・終末期から危篤時、死亡時のからだの変化について説明できる。
- ・死生観について考えを深め、述べることができる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 脳のつくりと働きの理解
2. こころと脳のつながり
3. 認知のしくみ
4. 人間の行動を引き起こすこころのしくみ
5. 社会的人間としてのこころのしくみ
6. 睡眠に関する基礎知識
7. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ
8. 高齢者の睡眠障害
9. 「死」のとらえ方
10. 尊厳死
11. 終末期から危篤時・死亡時のからだの理解
12. 脳死について
13. 「死」に対するこころの理解
14. 医療職との連携
15. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題についてレポートする。

#### 評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、レポート(20%)

#### 教科書

- ・『こころとからだのしくみ』（メヂカルフレンド社）

#### 備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、人間の基本的なこころとからだのしくみについて解説する。

授業科目	こころとからだのしくみⅡ			担当者	香川 満子		実務経験
							○
履修方法	講義	期 間	前期	学科・学年	介護1年	時 間 数	30

#### 授業の目的・内容

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人体の構造や機能を理解する学習とする。

#### 到達目標

- ①こころとからだの関係について理解できる。
- ②脳や心臓など基本的な解剖や生理を理解できる。
- ③骨・関節など体の動きのメカニズムを理解できる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. からだの形、臓器の場
2. 細胞・組織・器官・器官系①
3.            "            ②
4.            "            ③
5. 恒常性のしくみ
6. 自律神経の働き
7. 呼吸と循環の仕組み①
8.            "            ②
9. バイタルサイン
10. ストレスに対応するしくみ
11. 防御システム
12. 再生と修復のしくみ
13. 介護福祉士に必要な薬の知識
14. まとめ①
15.         "         ②

#### 事前・事後学習の内容

- ・テキストを読み理解を深める。
- ・重要点に印をつけて、復習に役立てる。

#### 評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、提出課題(10%)、授業態度(10%)

#### 教科書

- ・『こころとからだのしくみ』（メヂカルフレンド社）
- ・レジュメを使用する

#### 備考

看護業務に携わった経験を持つ教員が、医学的知識を活かして、人のからだの基本的な構造と機能について理解を深めることができるよう講義する。

授 業 科 目	医 療 的 ケ ア I			担 当 者	金 光 久 美		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な、基礎的知識を習得する。

#### 到達目標

- ・医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割について述べられる。
- ・感染予防および健康状態の把握など医療的ケアを安全・適切に実施するうえでの内容が述べられる。
- ・健康状態をはかる指標としてのバイタルサインの見方、測定ができる。
- ・救急蘇生法が実践できる。

#### 授業計画

##### 【後期】

1. オリエンテーション、なぜ医療的ケアを学ぶのか
2. 個人の尊厳と自立
3. 医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解
4. 保健医療制度とチーム医療 ①
5.                 "                 ②
6. 安全な療養生活 ①
7.                 "                 ②
8.                 "                 ③
9.                 "                 ④
10. 感染予防と清潔保持 ①
11.                "                ②
12. 健康状態の把握 ①
13.                "                ②
14.                "                ③
15. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。

#### 評価の方法・基準

- ・筆記試験(100%)

#### 教科書

- ・『医療的ケア』（メヂカルフレンド社）

#### 備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、医療的ケア実施の基礎的知識について解説する。

介護福祉学科  
2年

授業科目	介護の基本Ⅱ			担当者	豊田 美絵		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護2年	時間数	60

#### 授業の目的・内容

介護の歴史を学ぶことで、介護福祉士に求められる役割や機能を理解し、専門職として必要な知識や姿勢を習得する。また地域や災害時における介護福祉士の必要性について理解する。

#### 到達目標

- ・介護福祉の基本理念である尊厳の保持や自立支援の考え方を理解できる。
- ・介護福祉士の役割や機能を説明できる。
- ・ICFの視点を理解し、介護予防の必要性を理解できる。
- ・災害時の支援における介護福祉士の必要性を説明できる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 介護福祉とは
2. 介護の成り立ち
3. 社会の変遷と介護福祉の歴史について
4. 家族の機能や地域社会の変化
5. 介護福祉の発展
6. 介護問題の複雑化・多様化について
7. 地域社会を支える介護
8. 介護福祉士の定義
9. 介護福祉士の機能と役割
10. 介護福祉の基本理念
11. 尊厳を支える介護とは
12. 自立を支える介護とは
13. 自立に向けた介護：ICFの考え方
14. 介護におけるICFのとらえ方
15. まとめ

##### 【後期】

16. 尊厳や自立を支える介護の実際
17. 介護福祉における自立支援の意義
18. 介護におけるリハビリテーションの考え方
19. 介護現場におけるリハビリテーションの実際
20. リハビリテーションと介護福祉士の役割
21. 介護予防の意義と考え方
22. 介護予防の種類と特徴
23. 就労支援と介護福祉
24. 自立と生活支援
25. 地域共生社会における介護福祉士の役割
26. 人生の最終段階と介護福祉士の役割
27. 医療的ケアと介護福祉士の役割
28. 災害時における介護福祉士の役割
29. 災害時における支援の実際
30. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、次回授業開始時までには準備しておく。

#### 評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、出席・授業への参加度・発言の積極性・課題の提出(40%)

#### 教科書

- ・『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版）

#### 備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、社会における介護の必要性や介護福祉士の役割や機能について解説する。

授 業 科 目	介護の基本Ⅲ			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	6 0

#### 授業の目的・内容

介護を必要とする人への理解を深め、様々なサービスの概要を理解し、実際の生活支援技術を考える。また、介護福祉士として多職種との協働や制度の仕組みについて学習する。

#### 到達目標

- ・介護保険制度における介護サービス等の種類、内容について説明できる。
- ・障害者総合支援法におけるサービス等の種類、内容について説明できる。
- ・利用者を支援する様々な専門職種、地域の関係機関の機能と役割について説明できる。
- ・介護における安全確保とリスクマネジメントの必要性について述べることができ、具体的な事故と予防策について、実践例をもとに考えを述べるができる。
- ・代表的な感染症の感染防止対策が説明できる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 介護サービスの意味と特性
2. 介護サービスとケアマネジメント
3. 介護サービスの歴史的変遷、時代背景
4. 介護サービス提供の場の特性
5.           "           (居宅サービスの実際)
6.           "           "
7.           "           "
8.           "           (入所サービスの実際)
9.           "           "
10. 障害者に対するサービス提供の場とその特性
11.           "           "
12.           "           "
13.           "           "
14. 事例から必要な介護支援について
15. 中間まとめ

##### 【後期】

16. 多職種連携の意義・目的
17. 協働職種の機能と役割
18. 地域連携の意義・目的
19. 関連機関の機能と役割
20. 介護における安全確保と必要性
21. 安全確保のためのリスクマネジメント
22. 事故防止・安全対策
23.           "           の実際
24. 生活の場における感染対策
25. 高齢者施設における感染
26.           "           対策
27. 感染対策の基礎知識 ①
28.           "           ②
29. 国試対策
30. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、提出日までに行う。

#### 評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、レポート(20%)

#### 教科書

- ・『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版）

#### 備考

介護施設で介護職・介護支援専門員に従事した経験を持つ教員が、介護サービスや障害者サービスの特性や実際、介護福祉士に必要な施設管理方法について解説する。

授 業 科 目	生活支援技術 I			担 当 者	豊田 美絵		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、住まいの多様性を理解し居住環境の整備の必要性を考える。また介護ロボット等の目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。

#### 到達目標

- ・居住環境の整備の必要性を理解できる。
- ・対象者の状態にあわせた福祉用具の選択・活用が理解できる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 生活支援の基本的な考え方
2. 生活支援における介護過程の必要性
3. 生活支援と多職種連携
4. ICFの視点と生活支援
5. 住まいの役割と機能
6. 加齢と生活空間
7. 快適な室内環境
8. 安全に暮らすための生活環境
9. 高齢者・障害者の住まい
10. 生活支援における福祉用具の重要性
11. 福祉用具の種類
12. 福祉用具の実際とリスクマネジメント
13. 適切な福祉用具を選ぶための視点
14. 介護ロボットの開発・活用にみるこれからの福祉用具の可能性
15. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・授業終了時、プリントや資料（授業で使用したもの）をきちんとファイリングし復習する。

#### 評価の方法・基準

- ・授業態度(10%)、出席(10%)、課題提出物(20%)、試験結果(60%)で判断する。

#### 教科書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術 I』（中央法規出版）

#### 備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、介護施設の環境や介護を必要とする人の住環境、また福祉用具の活用について解説する。

授業科目	生活支援技術Ⅲ-②			担当者	吉岡 俊昭 寺藤 美喜子		実務経験
							○
履修方法	実習	期間	通年	学科・学年	介護2年	時間数	120

#### 授業の目的・内容

尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。

#### 到達目標

・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることも含めた適切な介護が提供できるために必要な知識や技術を習得し、介護実践に活用できる。

#### 授業計画

【前期】	【後期】
1・2. 様々な障害者の生活と理解	31・32. 実習で行った介護技術の振り返り
3・4. 様々な障害者への支援と連携	33・34. 障害や状況に応じた衣類交換の方法①
5・6. 障害や状況に応じた移動・移乗の方法	35・36. // ②
7・8. // 福祉用具の活用	37・38. 介護福祉職が行う医療的処置
9・10. // 食事介助の方法①	39・40. 訪問入浴見学
11・12. // 食事介助の方法②	41・42. ケアコンテスト見学
13・14. // 排泄介助の方法①	43・44. 緊急時の対応と感染予防
15・16. // 排泄介助の方法②	45・46. 終末期における介護の意義と目的 (エンゼルケア)
17・18. // 入浴の方法①	47・48. 終末期におけるグリーフケア (入棺体験)
19・20. 手浴と足浴介助の方法	49・50. 事例への対応①
21・22. 清拭と洗髪介助の方法	51・52. // ②
23・24. 障害や状況に応じたポジショニング	53・54. // ③
25・26. // シーティング	55・56. // ④
27・28. 福祉車両体験	57・58. // ⑤
29・30. 様々な福祉機器見学、体験	59・60. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。

#### 評価の方法・基準

- ・試験(80%)、授業への参加度・発言の積極性(20%)

#### 教科書

- ・『生活支援技術Ⅱ・Ⅲ』(中央法規出版)
- ・必要資料は適宜配付する

#### 備考

介護施設で介護福祉職に従事した経験を持つ教員が、障害に応じ、利用者の潜在能力を引き出し、安全に援助できる技術を解説する。





授 業 科 目	介護総合演習Ⅱ-②			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

実習の教育効果をあげるため、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力などについて総合的な学習を行う。実習モデルに基づきながら実習Ⅱの目的と目標について学ぶ。演習課題に取り組み、介護過程を中心とした知識・技術、他職種協働の視点を学ぶ。

#### 到達目標

- ・介護実習Ⅱ-①を振り返り、介護実習Ⅱ-②の課題が理解できる。
- ・介護実習に向けて、実習個人票や実習目標などの作成ができる。
- ・介護実習Ⅱ-②に向けて、より良い実習を目指した事前取組ができる。
- ・介護実習Ⅱ-②に必要な基本的な知識の整理ができ、資料作りができる。
- ・担当利用者のアセスメントと個別援助計画の作成ができる。
- ・実習報告会を通して、自分自身の今後の課題が理解できる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 実習Ⅱ-①の振り返り
2. 介護実習Ⅱ-②について
3. 実習Ⅱ-②のねらいと実習モデル①
4.                                 "                                 ②
5. 介護技術を軸にした介護実習 「実習日誌」 ①
6.                                 "                                 ②
7.                                 "                                 ③
8. 実習前準備 「実習施設」
9.     "                         「個人表」
10.   "                        「個人目標」
11. 実習前指導
12. 実習中間指導①
13.     "                        ②
14. 実習報告会①
15.     "                        ②

#### 事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

#### 評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

#### 教科書

- ・プリント配布

#### 備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ職員が、実習Ⅱに必要な知識や技術を解説する。

授 業 科 目	こころとからだのしくみⅢ			担 当 者	金光 久美		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	6 0

#### 授業の目的・内容

介護福祉士は、生活に支障が生じた場合に人々を手助けし、生活機能を遂行するうえで、その人の不足している部分を補う重要な役割を担っている。専門的な知識と技を活用してその人の力を見極めながら、安全に、かつ、快適さと安楽を考慮しつつ、最もよい方法で支援できるための根拠となるこころとからだの基本的なしくみについて理解する。

#### 到達目標

- ・からだの各部分のしくみについて理解できる
- ・機能の低下、障害が及ぼす日常生活行動への影響について学ぶ
- ・異常の発見のために知っておくべき「変化」について理解し、実際の介護に役立てることができる

#### 授業計画

##### 【前期】

1. 身じたくに関連した心と身体の基本知識
2. 身じたくに関連した心と身体のしくみ
3. 機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響
4. 〃
5. 生活場面における心と身体の変化の気づき
6. 活動・移動に関連した心と身体の基本知識
7. 活動・移動に関連した心と身体のしくみ
8. 〃
9. 機能の低下・障害が及ぼす活動・移動への影響
10. 〃
11. 生活場面における心と身体の変化の気づきと医療職との連携
12. 〃
13. 試験対策
14. 〃
15. 中間まとめ

##### 【後期】

16. 食事に関連した心と身体の基本知識
17. 食べることに関連した心と身体のしくみ
18. 機能の低下や障害が及ぼす食事への影響
19. 〃
20. 生活場面における心と身体の変化の気づきと医療職との連携
21. 入浴・清潔保持に関連した心と身体の基本知識
22. 清潔保持に関連した心と身体のしくみ
23. 機能の低下・障害が及ぼす入浴への影響
24. 生活場面における心と身体の変化と気づき
25. 排泄に関連した心と身体の基本知識
26. 排泄に関連した心と身体のしくみ
27. 機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響
28. 生活場面における心と身体の変化の気づき
29. 試験対策
30. まとめ

#### 事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。
- ・授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

#### 評価の方法・基準

- ・学期末テスト(80%)、レポート(20%)

#### 教科書

- ・『こころとからだのしくみ』（メヂカルフレンド社）

#### 備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、こころとからだの専門知識について解説する。

授 業 科 目	医 療 的 ケ ア Ⅱ			担 当 者	金 光 久 美 香 川 満 子		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	6 0

#### 授業の目的・内容

医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な、基礎的知識を習得する。

#### 到達目標

- ・呼吸のしくみと働き、いつもと違う呼吸状態について説明できる。
- ・消化器系のしくみと働き、消化器の症状について説明できる。
- ・急変、事故発生時の対応と事前対策について説明できる。
- ・医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちについて考えを述べるができる。
- ・喀痰吸引、経管栄養の実施の手順と留意点について述べるができる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. オリエンテーション
2. 呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸
3. 喀痰吸引とは
4. 人工呼吸器と吸引
5. 子どもの吸引
6. 喀痰吸引に伴うケア
7. 利用者・家族の気持ち、説明と同意
8. 感染と予防、吸引による事故
9. 急変時の対応
10. 消化器系のしくみ
11. 経管栄養とは
12. 栄養剤に関する知識、実施上の留意点
13. 子どもの経管栄養、必要なケア
14. 利用者や家族の気持ち、説明と同意
15. 中間まとめ

##### 【後期】

16. 感染予防、経管栄養による危険
17. 急変・事故発生時の対応
18. まとめ
19. 喀痰吸引の実施手順 ①
20. " ②
21. " ③
22. " ④
23. " ⑤
24. " ⑥
25. 経管栄養の実施手順 ①
26. " ②
27. " ③
28. " ④
29. " ⑤
30. " ⑥

#### 事前・事後学習の内容

- ・実技試験に向けて、自主練習を演習グループで行う。

#### 評価の方法・基準

- ・筆記試験(100%)

#### 教科書

- ・『医療的ケア』（メヂカルフレンド社）

#### 備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識、実施手順について解説、実演する。

授 業 科 目	医 療 的 ケ ア Ⅲ			担 当 者	金 光 久 美		実 務 経 験
					香 川 満 子		
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	3 0

#### 授業の目的・内容

医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な、基礎的技術を習得する。

#### 到達目標

- ・ 清潔操作に留意しながら、口腔内吸引が手順通りにできる。
- ・         "                     、鼻腔内吸引が手順通りにできる。
- ・         "                     、気管内吸引が手順通りにできる。
- ・         "                     、胃ろうからの経管栄養が手順通りにできる。
- ・         "                     、経鼻経管栄養が手順通りにできる。

#### 授業計画

##### 【前期】

1. オリエンテーション
2. 口腔内・鼻腔内吸引(通常手順) ①
3.                 "                     ②
4.                 "                     ③
5.                                     ④
6. 気管カニューレ内部吸引(通常手順) ①
7.                 "                     ②
8.                 "                     ③
9. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 ①
10.                 "                     ②
11.                 "                     ③
12.                 "                     ④
13. 経鼻経管栄養 ①
14.                 "                     ②
15.                 "                     ③

#### 事前・事後学習の内容

- ・ 評価項目の実技試験に向けて、演習グループで自主練習を行っていく。

#### 評価の方法・基準

- ・ 実技試験(100%)

#### 教科書

- ・ 『医療的ケア』(メヂカルフレンド社)

#### 備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識・実施手順について解説する。

授 業 科 目	総合演習Ⅱ			担 当 者	豊田 美絵		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	6 0

#### 授業の目的・内容

介護福祉士国家試験に向けての対策講座である。介護福祉士国家試験に必要な知識の習得を行う。

また、外部業者による模擬試験、学力評価試験など模擬試験を受け、①試験の雰囲気に慣れる。②国家試験の傾向を掴む、③学生自身の弱点の克服を目指す。

#### 到達目標

- ・介護福祉士国家試験に出題される基本的な知識の習得ができる

#### 授業計画

##### 【後期】

- |                    |                                 |
|--------------------|---------------------------------|
| 1. 社会の理解①          | 16. 発達と老化の理解                    |
| 2.     "     ②     | 17. 障害の理解                       |
| 3. 社会保障制度について      | 18. 生活支援技術                      |
| 4. 介護保険制度について      | 19. 外部模擬試験（午前）（外部会場）            |
| 5. 介護の基本①          | 20.     "     （午後）（     "     ） |
| 6.     "     ②     | 21. 外部模擬試験の復習①                  |
| 7. 模擬試験①           | 22.     "     ②                 |
| 8.     "     ②     | 23. 学力評価試験（午前）                  |
| 9. 模擬試験結果からの対策     | 24.     "     （午後）              |
| 10. ころとからだのしくみ①    | 25. 学力評価試験の復習①                  |
| 11. ころとからだのしくみ②    | 26.     "     ②                 |
| 12. 外部模擬試験（午前）     | 27. 学内模擬試験（午前）                  |
| 13.     "     （午後） | 28.     "     （午後）              |
| 14. 障害者福祉制度①       | 29.     "     （午前）              |
| 15.     "     ②    | 30.     "     （午後）              |

#### 事前・事後学習の内容

- ・①授業で学んだ項目の復習、②模擬試験を活用した自己学習、③テキストを利用した自己学習が常に求められる。そのため、受け身的に授業を受けるのではなく、積極的に自己学習し自己の知識の向上に努めることが大切である。

#### 評価の方法・基準

- ・授業への取り組み(30%)、模擬試験(70%)などの試験評価など

#### 教科書

- ・『2020年版 介護福祉士完全マスター問題集』（ナツメ社）
- ・『介護福祉士国家試験わかる受かる合格テキスト2020』（中央法規出版）

#### 備考

外部業者による模擬試験や学内の模擬試験は休まず受験すること。